

事例 8

< 事例概要 >

- ・ 70 歳代の患者、PS ※1。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖無。
- ・ 主診療科：呼吸器内科、肝生検施行診療科：消化器内科。
- ・ 抗凝固薬内服中。肝生検前日から休薬した。
- ・ 血小板25.9 万/ μ L。
- ・ 原発性胆汁性胆管炎の可能性がある、腹部超音波で肝臓の位置を確認後、肝生検が実施された。
- ・ 1、2 回目の穿刺で組織採取できず、3 回目で組織採取した直後、大量に喀血した。特発性気管出血との判断で、気管内挿管されたが、肝生検の 2 日後に肺出血と緊張性気胸により死亡した。
- ・ 生検組織診断の結果は、肺胞組織であった。

※ PS（performance status）：ECOG（Eastern Cooperative Oncology Group）が定めた全身状態の指標で、患者の日常生活の制限の程度を示す